

広報 いが市



1月合併号

No.312

2019年（平成31年）1月1日号

【特集】新春対談

伊賀の若者と市長が語る、
伊賀市の未来……………2

【特集】伊賀市新庁舎オープン……………6

賑わいの灯りをともすために……………10

亥年生まれの皆さんに今年の抱負を伺いました…12

集落営農支援事業補助金の対象事業を募集します…13

税の申告……………14

UD FONT ユニバーサルデザイン（UD）の考えに基づいた見やすい
デザインの文字を採用しています。

—伊賀の若者と市長が語る、伊賀市の未来—

若者会議

「伊賀市若者会議」メンバー

あげ み 上見
お お さ わ 大澤
な か ほ 中保
ひろ き 浩基さん
あい み 愛生さん
ゆ り 友里さん

市長

伊賀市長
岡本 栄



新年明けましておめでとうございます。
今回の特集は、新春企画として、伊賀市若者会議のメンバーと岡本市長との対談をお届けします。
若者会議を代表してお越しいただいたのは、上見浩基さん、大澤愛生さん、中保友里さん。
対談では、開庁前の新しい伊賀市庁舎で若者会議への参加のきっかけや取り組みについて、若者から見た伊賀市の魅力などを語っていただきました。

(本文中敬称略)

市長 はじめまして、本日は新春企画ということで若者会議の皆さんに集まっていただきました。よろしくお願ひします。

では、まず皆さんに伊賀市の印象と、若者会議に参加した動機をお聞きしたいのですが。

大澤 私は高校生の時から伊賀市を離れて、この4月に就職で伊賀に帰ってきたんですけど、伝統品をもっと発信していこうという雰囲気だったり、まちおこしというか、少しずつ新しいことが増えてきているなと感じました。

市長 大澤さんは学校で英語の先生をされているんですね。

大澤 はい。私が若者会議でどんな新しいまちおこしをしていけるかなと考えた時、大学で英語を専攻し、留学していたこともあって、海外からの観光客の人たちに日帰りではなく伊賀市に泊まっていたら、もっと伝統的な魅力を感じてもらえたらいいなと思って参加しました。

市長 中保さんは？

中保 私は転勤で伊賀市に赴任することになったのですが、大学生のときに上野商工会議所の伊賀ビジョン



策定に携わったり、以前から伊賀市とはかわりがありました。そのときに初めて乗った伊賀鉄道の感動が特に印象に残っていて忘れられません。四方の山々に見守られながら、田園風景を抜け、お城のある市街地を走る忍者列車は伊賀市ならではの思い出でした。

市長 中保さんはいわゆる伊勢の国の出身でしたか。

中保 はい。私は伊賀市出身ではありませんが、これはきつと学生時代からのご縁なんだから、ぜひ参加したいと思いました。こちらでは同世代の人たちと出会うきっかけがなかなかないので、皆さんどういうことを感じているのか、リアルな思いを

知りたいです。

市長 こちらで生活するまで伊賀市はどんなふうに見えていましたか。

中保 伊賀市は関西圏というイメージがあつて、おもしろそうな文化を持っている場所だと感じていました。どういつふうに表現したいのか良い言葉は見つからないですが、伊賀市には三重県の太平洋側にはない独自の魅力を感じていました。

市長 藤堂高虎が伊賀に来た時に、「伊賀は秘蔵の国」と言ったそうですが、その通りということなんでしょう。

上見さんは、ベトナムで過ごされていたそうですが、なぜ伊賀にいられたのですか。

上見 ベトナムから日本に帰ろうと思った時に、自分が生まれた三重県がいいなと思っていました。その時に、東京の有楽町の移住センターで知り合った伊賀市の移住コンシェルジュのかたが、3日間もかけて伊賀市中を案内してくれたんです。どの地域に住みたいかとか、いろんな人を紹介してもらいながら。実際に伊賀市に来て、建物が立派で、土地に文化があつて、そつした蓄積されたものがあるまちだなと感じました。またこの先、起業などを考えた

時、立地面でも可能性が高そうな場所でした。

市長 そうだったんですか。

上見 それで伊賀市に来て、出会う人が本当におもしろくて、こつたつ

上見 浩基さん(右)
中保 友里さん(中)
大澤 愛生さん(左)





たらしもいろいろいことができそうという感じがすごくありました。その流れの中で若者会議があつて、これまでに移住者のつながりしかなかったの、伊賀市の人はどういことを考えているのか知りたいなと思つて参加しました。

市長 若者会議に入つて、どんな伊賀市にしていきたいと思つていますか。

上見 若者会議は、大学生になつたばかりの人から僕のような世代までいて、それぞれ見ているところが違うので、この年齢の幅で知り合つてがすごく大事というのが一番にあります。

若者会議を通して、何ができるのかというよりは、どういことに疑問を抱くのかといことがすごく大事で、その後は、それぞれが会つた人と次の一歩を踏み出していくのになつて思います。

市長 そうですね。皆さんには、いろいろ言つてほしいですね。どこに落ち着くかは私たちが言つべきことではなく、皆さんが考えていくことだし、それは個人的なことかもしれないし、あるいは組織でやつていくことかもしれない。皆さんは歩んできたところは違つわけだから、その目で見てほしいなと思つますね。

中保さんはどうですか。

中保 夢をかなえたいと思つている人や何かに困つている人に寄り添つて、一緒に解決していこうという雰囲気や育つていくといいなと思つています。個人としてはアンテナを高く張つて、伊賀市を取り巻く環境の変化や今何が起つていのか、皆さんが何に関心を持つていのかといことを察知して、積極的に取り入れていきたいです。そのためにも多くの人と話して、見識を深めたいと思つます。

市長 やつぱり自分がどんなところだったらがなされるのか、住めるのか、希望が持てるのかといことなんだろうなと思つますね。

だから、若者会議で考えていただく時に、将来の子どもたちのこともしっかりと目線の中に入れていただきたいと思つています。

大澤 先日、学校の生徒たちが伊賀市の未来作文といものを書いたのですが、その時に子どもたちが、「伊賀市の未来について分からへん」と言つていたので、自分がどんな伊賀市だったら住みたいかと、今の目線で思つこ



とを書いたらどうかとアドバイしたんです。そうしたら、伊賀の伝統的なことが好きとか、伊賀市が好きつていう子が多くて。それは子どもたちがそういつたものを見て、感じて育つてきたからであつて、それを次につないでいつてほしいという思いがすごくあります。

若者会議でも、発信するだけじゃなくて、学んだことをアレンジして、また次につないでいく。そういつつながりを作つていつたらいいなと思つています。

市長 こんなにいろんなことをきちんと考えてくれる人たちが伊賀市にいるんやな、安心やなつて思える若者会議にしてみたいですね。



最後に、皆さんがこの若者会議をどんなふうにしていききたいのか聞かせてください。

大澤 自分一人が何かするとなると勇気があるけれど、伊賀市が好きだし、これからずっと住んでいきたいと思っていて、その第一歩として、みんなで何かをしよう、考えていこうって思えるものになればと思っています。若者会議にはいろんな思いを持った人がいて、一人ひとりの力が集まることで、大きな力になっていくと思うので、それが長い目で見ると、伊賀を支えていく、若者たちで支えていくというものになればいいなと思います。

中保 これから伊賀市ってどうなっていくんだろうっていう漠然とした不安や疑問をお持ちの人もいると思います。大げさかもしれませんが、若者会議がその一つの光となっていくといいなと感じています。未来に向かって大きな夢を描いてどんどん前に進めていかないとできることも実現しないと思うので、今日、この対談をきっかけにあらためて自分を見つめなおして、何ができるのか、何がしたいのか考えていきたいです。

上見 これからの時代は、いわゆる働き方や暮らし方というのがテーマの1つになると思っていて、それ

らの価値観を発信し、わかるように伝えていきたいと思っています。まずは若者会議のメンバーや行政の人たちと一緒に、「そんなのあったらおもしろそう!」って思えることを考えられる場所になればいいと思います。

ところで、市長さんは、2019年はどんなことに取り組んでいこうと思っていますか。

市長 私は、市民の皆さんが可能性を開く、そんな土壌づくりをしていくのが行政の仕事だと思っています。一人ひとりも

そうですけど、地域としての可能性、他の地域にはない事がいっぱいあって、ポテンシャルはかなり高いわけですから、それをしっかりと形にしていける。それが地域経済に結びついて、まわりまわって若い人たちの力になり、そして未来への力になっていきますから、そんなことをやっていきたいなと思っています。皆さんにも、それぞれの道を開き、手を携えて、楽しく地域を盛り立てていていただきたいと思います。

個別のことでは、若い人たち、いろんな年代の人たちが、しっかりと



交流できる場所、居場所づくりという意味で、旧市庁舎のリノベーションに取り組み、それが一人ひとりの自己実現につながったり、地域の元気づくりにつながることに思うので、ぜひこれはやっていきたいなと思っています。

やっぱり大事なことは、伊賀市に生まれて、住んで、良かったなと思える、そういう誇りを持ってもらえるようなことをしていきたいと思います。

本日はお越しいただきありがとうございます。

伊賀市新庁舎 オープン!

1月4日(金) 開庁

市民サービスの一層の向上、市民の安全安心な暮らしを支える防災拠点となる庁舎をめざして、平成29年から工事を進めていた市役所の新庁舎が完成し、1月4日金から業務を開始します。

◆概要

所在地 伊賀市四十九町3184番地
延べ面積 14,288.7㎡
構造 鉄骨造(免震構造)

階数 地上5階
工期 平成29年3月～平成30年11月
建設費 5,137,595,640円



◆新庁舎の特徴

①伊賀らしい庁舎

大屋根や深い庇、城下町を連想させる黒を基調とした外観など、伊賀らしさを表現した庁舎としました。

②利用しやすい分かりやすい庁舎

1階から4階まで吹き抜けを設け、来庁者が庁舎内を一望できる、配置が分かりやすい庁舎です。また市民利用の多い窓口を1、2階に集約しています。

③防災指令機能を維持する庁舎

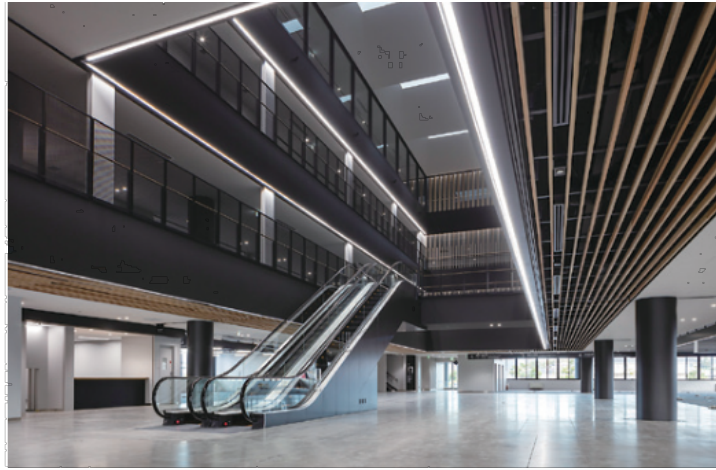
地震による建物被害を最小限にするため、免震構造を採用しました。また、万が一ファイラインが途絶えても、自家発電機による電力供給や水備蓄なども備え、災害復旧活動が継続できる庁舎としています。



◆その他の特徴

○エレベーター・エスカレーター

3基のエレベーターを設置しました。窓口を集約した1・2階にはエスカレーターを設置しました。



○市民スペース

1階エントランスに市民スペースを設けました。休憩コーナーや市民ギャラリーなどにご利用いただけます。

○相談カウンター

相談者のプライバシーに配慮し、カウンターの間仕切りや個室の相談室を設けました。



○地元産木材を使用

1階エントランスの天井や吹き抜け周りに、みえ森と緑の県民税を活用して伊賀市産木材を使用しました。



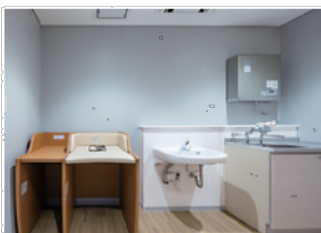
○芭蕉さんの真筆を用いた看板

庁舎北側と南側駐車場入口に松尾芭蕉の書簡より転載した文字を使った「伊賀市」の看板を設置し、芭蕉生誕の地をアピールします。



○みんなのトイレ・ベビー休憩室

だれもが使用しやすいように、多目的ボード、子ども用便器、オストメイト対応流しなどを設置しています。1階にはベビー休憩室もあります。



○議場

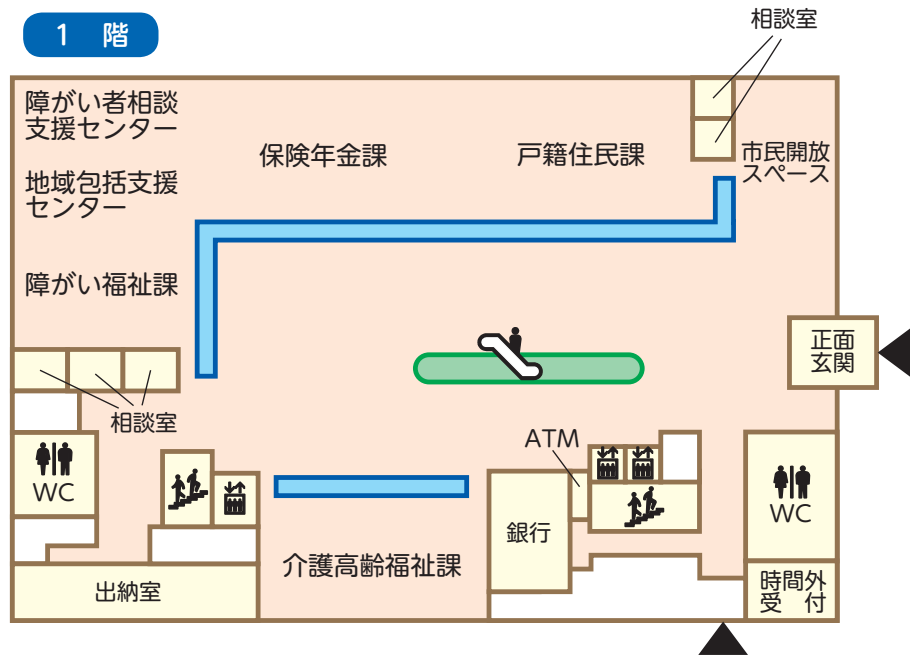
内装に伊賀市産木材を使用しています。傍聴席は50席設けています。

○待合番号表示システム

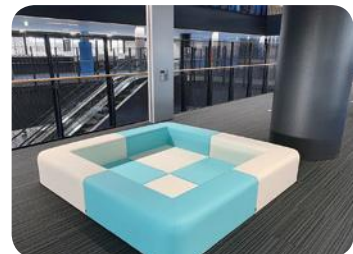
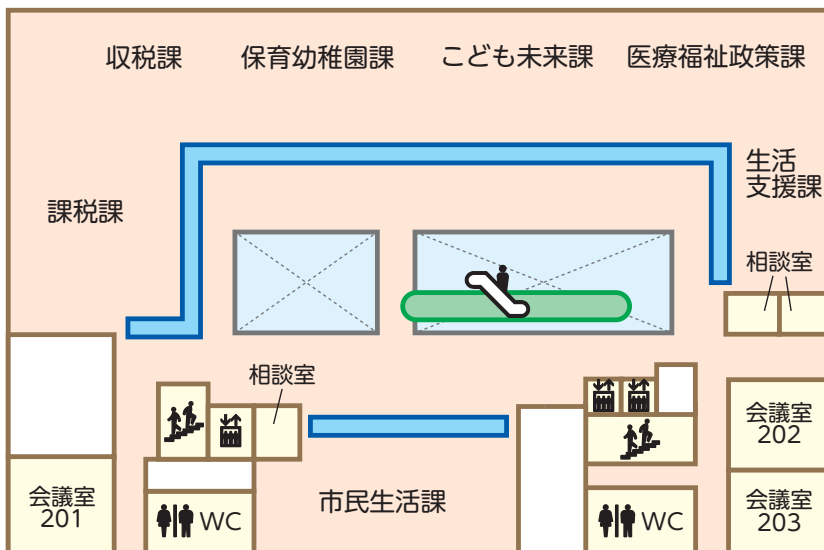
戸籍住民課と保険年金課の窓口に来庁する人の混雑を緩和するため、待合番号の発券機を設置しました。待ち人数をスマートフォンやパソコンから確認できますので、事前に混雑状況を確認のうえ役所にお越しいただけます。



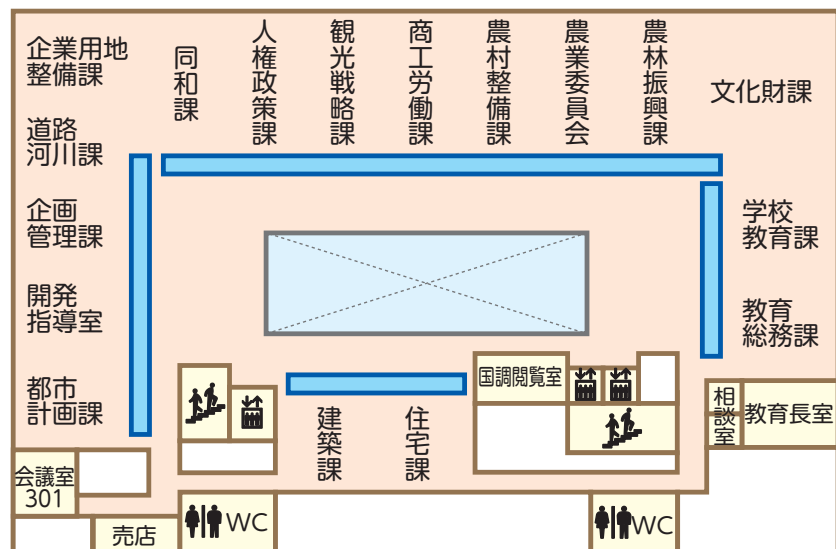
1 階



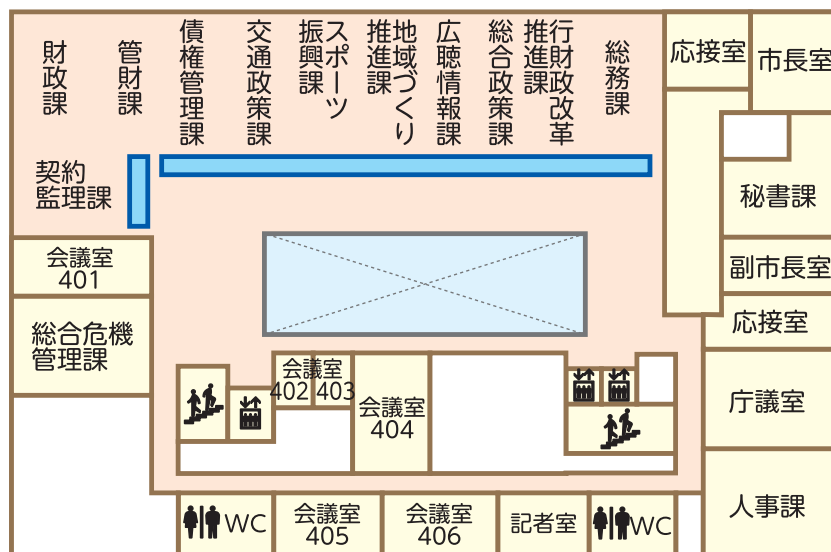
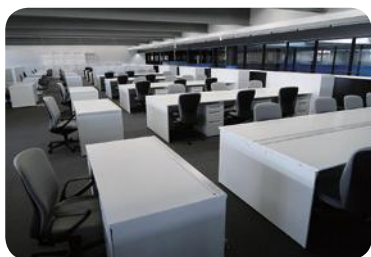
2 階



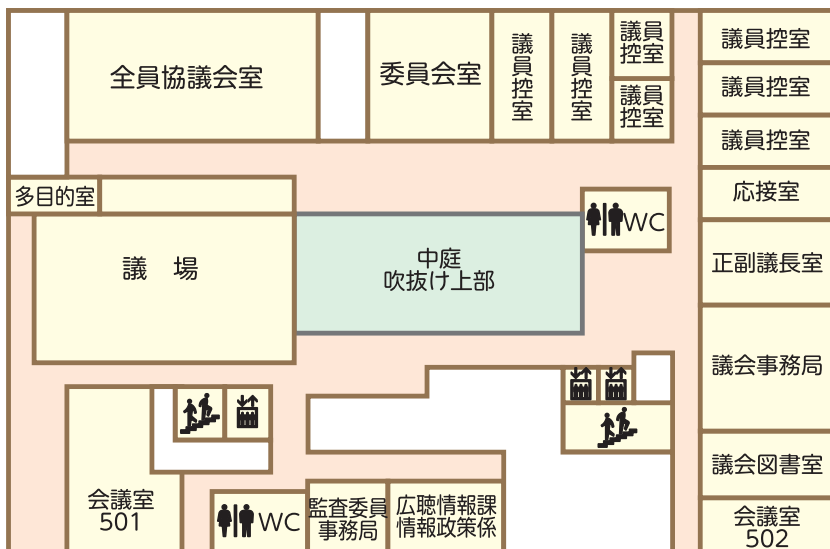
3 階



4 階

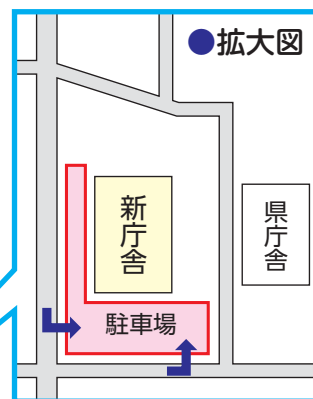


5 階



【業務時間】
午前8時30分～午後5時15分
※毎週木曜日は、「戸籍・住民票・税関係など」の証明窓口業務を午後7時30分まで延長しています。証明書交付時には「本人確認書類」を提示していただきます。

【問い合わせ先】
管財課
☎ 22・6610 FAX 24・2440
✉ kanzai@city.iga.lg.jp



【公共交通でお越しの場合】
○伊賀鉄道「四十九駅」から徒歩約10分
○上野コミュニティバス「しらさぎ」「伊賀市役所前」下車すぐ